

令和８年度碧南ふれあい作業所指定管理者審査委員会 会議録

1 日時

令和８年７月２３日（木）午前１０時から午前１１時０５分まで

2 場所

碧南ふれあい作業所 ３階 会議室

3 出席者

(1) 委員

碧南市副市長	山本 政裕（委員長）
東海税理士会刈谷支部本会理事	伴野 義雄
日本福祉大学教授	青木 聖久
民生委員協議会代表	古久根 久美子
地域自立支援協議会就労支援部会長	高松 有美
市民公募	加藤 加恵
碧南市企画政策課長	山本 貴史

(2) 事務局職員

福祉部長	鈴木 美奈子
福祉課長	磯貝 浩
福祉課福祉総務係長	金原 寛

(3) 指定管理者

碧南ふれあい作業所所長	渡邊 明香
社会福祉法人WH J 理事長	竹内 涼
社会福祉法人WH J 法人本部経理部長	角田 和也

4 傍聴者

０名

5 議題

- (1) 令和７年度事業報告及び収支決算について
- (2) 令和８年度事業計画及び収支予算について
- (3) その他

6 議事の要旨

(1) あいさつ（山本委員長）

(2) 議題

（施設紹介）

ア 令和７年度事業報告及び収支決算について

指定管理者が会議資料に基づき、議題アを説明した。その後、審議した結果、承認された。

＜主な意見・質疑＞

【委員】

令和６年度と比べて、令和７年度は非常勤職員給与の支出が少なくなっている。職員が減った影響だと思うが、運営の工夫はなにかあるか。

【指定管理者】

言語入力や現場対応がしやすくなるようなＩＴツールを順次導入している。

【委員】

資料８ページ 雑収益（５８７４）の内訳を教えてください。

【指定管理者】

物価高騰対策支援金です。

【委員】

以前と比べて利用者が減っているということは、就労継続支援Ａ型事業所などを利用する人が増えているのか。

【委員】

知っている就労継続支援Ａ型事業所は、どこも減っていると聞く。

【指定管理者】

ふれあい作業所は利用者の高年齢化が進み、介護保険への移行が増えている。ステージが変わり、抜ける人に比べて入ってくる人が少ない。どの事業所も同じような状況。利用者に選んでもらえる事業所を目指すよう取り組んでいる。

また、ふれあい作業所は「働ける生活介護」というテーマで、就労はハードルが高いが、仕事をしたいという利用者に紙すきや下請け作業の提供をしている。ここで一生懸命続けてもらい、就労に進めるような人がいれば、相談支援事業所支援員と連携をとって、就労継続支援Ｂ型等の次のステージに行っていただくことも考えている。

【委員】

自宅近所に障害疑いがあり、事業所は利用しておらず家に引きこもっているような人がいたりする。そのような人に事業所を利用してもらうような手立てはあるか。事業所を利用してもらえるＰＲ活動はなにかあるか。

【指定管理者】

事業所としては強制的に連れてくることはできないが、施設の紹介に訪問することはできる。制度というものに則る必要はあるが、それ以上になにができるのか考えていくのは社会福祉法人の意義だと思うので、また機会があればご相談してほしい。

【委員】

ふれあい作業所の利用について、年齢制限（下限）はあるか。

【指定管理者】

年齢制限は設けていない。現在は1名も利用していないが、中学校卒業後に日中一時支援の利用は可能。

【委員】

現在の賃金（利用者）はどのくらいか。

【指定管理者】

月に4千円から2万円の範囲です。

【委員】

外の作業等で手当の上乗せなどがあるのか。

【指定管理者】

厨房での食事管理や専門性のある作業に対しては手当を支給している。過去には農園に従事する利用者に対し、猛暑寒冷手当というものがあったが、今は支給していない。

イ 令和8年度事業計画及び収支予算について

指定管理者が会議資料に基づき、議題イを説明した。その後、審議した結果、承認された。

＜主な意見・質疑＞

【委員】

自身の活動において、ふれあい作業所から苗を購入することが多くある。大変助かっている。

7 まとめ（日本福祉大学教授 青木 聖久）

以下4点について、講評があった。

・地域社会貢献

小中学校や特別支援学校と交流していることが良い。保護者や企業への開拓に対し、付加価値が付いていると思う。また、本日会場に来た際に、職員に対し、利用者が笑顔で迎える様子が見られた。非常に施設の様子が明るい印象を受けた。

・働くことへの可能性

利用者を増やすために、まず、事業所利用者が減ってきている要因として高齢化はもちろんだが、国として一般企業に対する障害者雇用に力を入れているということもあることについて考えてほしい。

・報告できる人や場所

事業所の運営について、従来の福祉職員の声掛けは「困ったことはないですか」だったが、利用者目線で考えると、困ったことを自ら報告できる職員を求めている。困っただけでなく、嬉しかったことを報告できるような環境を念頭に運営してほしい。

- ・伝える、伝わる、つながる

人と人とが情報でつながることが大切。

施設のPR方法について、若者はインターネット動画からの情報吸収がメインのためもっとITを活用していった方が良い。